教育目標　【自分づくり】社会に目を開き　「なりたい自分」の姿を描き　実現しようとする人

○自ら考え、表現できる人（創造）
○仲間とともに高め合える人（共生）
○心身ともにたくましい人（健康）

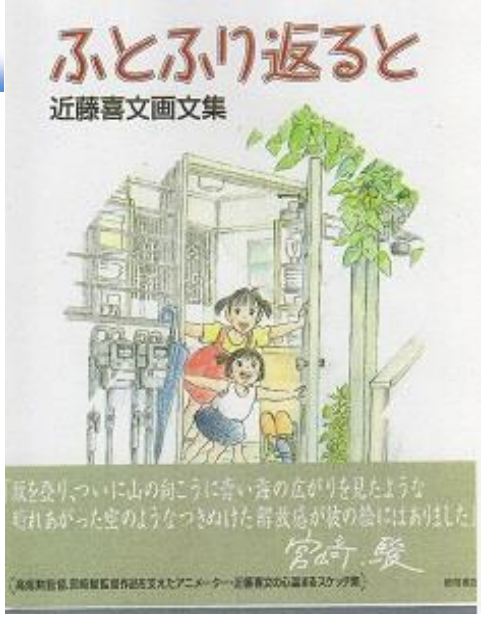
学校だより　第１０号

ひ　ら　く

平成２８年　７月　２日発行
須賀川市立第三中学校
ＴＥＬ　７３－２３７７
発行責任者：校長　高崎則行

「玉磨かざれば光なし」

才能のある、なしを安易（あんい）に口にしてはならない



近藤喜文（こんどう・よしふみ）

スタジオジブリのアニメーター。長編映画「耳をすませば」で初監督。「火垂（ほた）るの墓」「思いでぽろぽろ」「もののけ姫」でもキャラクターデザインや作画監督を担当。

１８歳の時に新潟県五泉（ごせん）市から上京。ＴＶアニメ「ど根性ガエル」や「赤毛のアン」の制作にも参加。1998年、４７歳で世を去った。

昨年の１０月３１日（土）、中学校駅伝東北大会の応援で宮城県に行ったついでに、花巻市にある石ノ森萬画館※1まで行ってみました。折よく、近藤喜文の特別展が開催されていました。それを見て私は、一つの作品のためにたくさんのデッサンやイメージボード※2が描かれていることに大きな感銘（かんめい）を受けました。特に、「火垂るの墓」では、妹の節子（３歳）の体形の幼児らしさを表現するために、実際に幼児を観察して描いた指や手首・足首のくびれ、膝（ひざ）とふくらはぎの微妙な丸み、立ち姿のお腹やお尻の出具合、頬（ほほ）やあごのラインなど、たくさんのパーツのデッサンが展示されていました。

その展示品の中に、「一日一漫」と筆で書かれた２冊の大学ノート※3がありました。あいにく手にとって中を開くことはできませんでしたが、解説によると、一日に一つ漫画を描くことを自分に課したもので、おそらく高校時代のものだろうとのことでした。また、アニメーターになってからも忙しい仕事の合間を縫って、スタジオ周辺の生活感あふれる瞬間をスケッチしています。没後、そのスケッチを編集・出版したのが、右上の「ふと振り返ると　近藤喜文画文集」です。※4

展示品は、近藤さんの描いたもののほんの一部にすぎません。しかし、そのおびただしい数のスケッチ、デッサンなどを前に「近藤さんは才能に恵まれていたからアニメーターとして成功したのだろうか？」と、私は考え込んでしまいました。家に帰ってからも考えました。そして、「才能の有無（うむ）なんて自分にだってわからない。いい作品を描きたくて、ひたすら自分の能力を伸ばす努力を続けた人なのだ。」という考えにたどり着きました。前の卒業式で、来賓の大越　彰さんがおっしゃった「玉磨かざれば光なし」※5とは、このことなのです。努力すれば誰でも漫画家やアニメーターになれると言いたいわけではありません。しかし、夢をかなえた人は皆努力しているということは言い切っていいように思います。「成功」とは、そういうことなのではないでしょうか。

ちなみに、師匠（ししょう）にあたる宮崎　駿（はやお）の仕事をするときの口癖（くちぐせ）は「面倒くさい」なのだそうです。でも、他の人がそれを口にすると、「（質の高い）いい仕事というのは、すべて面倒くさいものなんだ。」と言って聞かせているといいます。

※1　漫画「仮面ライダー」や「サイボーグ００９」の作者　石ノ森章太郎のミュージアム。
※2　アニメーターがチーム内でイメージを共有するために、節目節目のシーンを絵にしたアイディアスケッチのこと
※3　今は見かけなくなりましたが、昔は１００枚つづりの分厚いノートがあって、それを「大学ノート」と言いました。
※4　そのとき売店で買い求めたものです。著作権に抵触するといけませんので表紙のみの紹介とします。
※5　どんな宝石も磨かなければ光らない、という意味。

熊本に「気持ち」を届けます
募金へのご協力に感謝です！

本紙第４号に「熊本へのエールを」の見出しで募金（義援金）のお願いをしました。その中で、福島県ＰＴＡ連合会が行う募金は保護者が、生徒会が行う募金は生徒が自分のお小遣いからしてはどうかと提案しました。

保護者の皆さんからの募金は総額７９，７００円となり、福島県ＰＴＡ連合会に届けました。生徒会の募金は、総額１８，４４４円となり、福島民報新聞社を通じて義援金として熊本県に届けていただきました。

東日本大震災の時に受けた善意に対する恩返しの気持ちがこのような結果になったものと、子どもたちと保護者の皆様の善意を誇りに感じています。

たくさんのご協力ありがとうございました。

本校生徒も地域活動を支えます
私たち「ひがし公民館応援隊」

地域の人たちと積極的に交流し、将来にわたって地域の活動に関わっていくことのできる青少年を目指して、今年も１１名の生徒が「ひがし公民館応援隊」に名乗りをあげました。今年度は、東公民館で開催される以下の事業にボランティアで参加します。

７月２８日（木）夏休み交通安全教室
８月　２日（火）子ども探検隊移動研修
８月２７日（土）らら❤たいむ
１０月　９日（日）子どもの祭典
１２月１１日（日）クリスマスキッズフェス

そのメンバーは次のとおりです。皆さん、応援してください。

柿沼　愛菜（あいな）③
小林いぶ稀（いぶき）③
佐藤　明莉（あかり）②
廣田　美紀②
小林あかり①
柏倉　嘉乃（よしの）①
木賊（とくさ）いずみ③
廣田　拓雅（たくま）③
永嶋　綾花（あやか）②
有馬　空音（くおん）①
青津　茅宙（ちひろ）①

（注）○数字は学年です。

その２　労働の教育（家庭教育文献紹介「親でなければできない教育」より）

学校教育におけるキャリア教育の重要性が言われたのは、1999年です。ニートやフリーターが社会問題化したのが、その背景の一つになっています。紹介している著書はそれ以前のものですが、小学校から始まるキャリア教育の基盤は、やはり家庭教育にあるという認識が大切です。

社会に出たときに必要となるのは、実際に仕事をするときの資質や能力です。知識や技術は、その一側面にすぎません。ですから、「家事労働はお母さんがやるから、あなたはしっかり勉強をしなさい。」と仕事を与えないのは、知らず知らずのうちに労働の軽視、労働に従事する人間の軽視に走らせていることになるかもしれません。（家事や育児も尊い仕事なのに、母親軽視につながりかねないとさえ、著者は言っています。）

家庭教育における労働の教育は、まず家庭内の手伝いから始めるのが自然です。家事が母親だけで間に合ってしまうという家庭は、母親が家庭内のことに専念するのではなく、趣味活動をする、奉仕活動をするなどして、子どもために仕事を生み出す工夫も必要です。それは、子どもにとって母親の生き生きした生きさまに出会うことにもなり、また、家族の愛情と連帯感を深めることにもなるでしょう。家庭内で決めた仕事についてはあれこれ干渉（かんしょう）せず、ある程度は任せるようにします。そのことで、人にあてにされる、頼りにされるという実感が育ちます。毎日やるべき仕事だけでなく、来客対応など、臨機応変（りんきおうへん）に任せる仕事も体験させるとよいでしょう。

小学校の高学年ごろからは、仕事の質と報酬（ほうしゅう）の関係を語ってあげます。このとき、楽をしていい収入を得るというふうに取られないよう気をつけましょう。厳しく自己評価をし、仕事の質（実力）を高めようとする意欲を育てたいものです。また、この時期には、母親の仕事だけでなく、ぜひ父親の仕事を話題にしてください。併（あわ）せて、仕事に対する責任感、労働のモラル、プロ意識の育成も意識するようにしましょう。

私などは、２４時間の大半を両親の働く姿を見て育ちました。今は、それが難しくなりました。せめて心構えだけでも子どもに伝えてほしいと思います。キャリア教育の根っこは、家庭における労働教育にあるのです。

本校ホームページでもご覧いただけます。アドレスhttp://www.sukagawa.gr.fks.ed.jp/?page_id=196